

令和5年 12月吉野町教育委員会定例会議 会議録

日 時：令和5年12月15日（金）午後15時00分～ 場 所：中央公民館4F

出席者：吉野町教育委員会 教育長 職務代理 委員3名

事務局 3名

1. 開会挨拶

2 審議案件

議第1号 後援名義申請について

① 名称『ジャズってなあに』

申請者 SPOONFUL MUSIC 代表 柴田 光明

【資料1】

質疑・応答なく全員一致で承認

3. 報告案件

報第1号 教育総務課の事業進捗状況報告について

教育長：今年度の交流事業は、小学校は富良野市富良野小学校、中学校は八女市矢部清流学園ということになる。富良野小学校とは給食を通しての交流ということで互いにWEBで繋がりながらそれぞれの文化や気候の話をしたと聞いている。雪が降ったら富良野の雪の風景ということで、『雪のある暮らし』の交流をする予定である。

委 員：富良野との活動は喜佐谷の木村さんが中心になって進められていたことを伺っている。

教育長：水害で被害に合った中荘地区の方々が北海道に渡って、富良野プリンスホテル辺りに入植され、本町と関係性がある。八女市には後醍醐天皇の息子が華々しく戦って地域の英雄となられ、今も祀られている。こども園のICTについては、登降園の管理が、きちんと何時何分と確認できる。

報第2号 生涯学習課の事業進捗状況報告について

学習サポートについて

委 員：学習サポートは毎月水曜日とあるが、毎週ではないのか？

事務局：第1から5までの水曜日のご都合を聞かせてもらっている。

委 員：本来ならば学校の先生に聞いたらいいのではないかと思うのだが。

事務局：基礎学習の底上げのために、地域の人を借りることを考えている。

教育長：違う人と接することでわかったり、やる気になったりする可能性がある。

委 員：月何回で足りるのですか？せめて週1回とか・・・。

教育長：少しでも機会を増やし、支える効果があればいいというのも提案理由の一つです。

委 員：まずは地域の人と接点をもつ機会にしようという考え方ですね。

教育長：うまく広がっていくかは、学校と協力し相互理解が必要。

教育長：日頃の学習の中で、本当にわからない子は「わからない」と言えない。まずはみんなと一緒にやっている勉強がわかる状態を作ることが大事。わからないまましておく学校に足が向かなくなる。学校とは別の場、アナザーワンというセフティーネット

を考えてくださっている。

CS導入について

教育長：コミュニティースクールの概念の理解からかと思う。地域と学校を一体化しようとするものです。年に少なくとも2回開催してもらって、一緒に学校の運営を考えていこうとする取り組み。

委員：先生方の負担にならないかが心配です。

委員：地域と学校は協調して、地域の特徴を生かしながら教育をしていくことは理想なこと。今までの既存の組織がある。新しい組織をつくったからといっても全く新しいものではない。表を見るといろいろな組織がある。学校運営協議会は組織としてどのような位置づけなのかが分かりにくい。

委員：地域の住民達は学校運営にどのように力を貸そうかと動いている。先生が働きやすいようにする。その結果よい子ども達をつくることに繋がる。

事務局：吉野町には地域の人が学校に関わるプロセスの土壌が長年によって、今このような形でもある。CSを導入することにより、話し合いのテーブルも生まれるし、考える気運もより高まるのではないか。

事務局：地域の方もこの協議会に参加するというよりは参画するのですから、学校運営そのもの、どのような子ども達に育てていくのか考をえる立場になる。

教育長：学校運営の基本方針を校長が示すとある。それに対して承認がある。承認するかしないか高い権限のように見えるが、そのようなことではない。学校がやっていることをみんなで知る。知ったうえで協力を申し出る。

委員：図式になると堅くなる。図式には抵抗がある。

委員：図式化すると大げさに見えるが、書かれて活動はすでにやっていること。目的とすることをはっきり出してもらう方がわかりやすい。

教育長：学校の組織を侵すものではない。目的の理解をおさえる。

教育長：地域の人意見を聞き協力してもらうことに感謝する場になっている。様々な人に関わって頂いて助かっているのが基本的な流れ。吉野町はこれから紆余曲折あるかもしれないが、良い方向に行くと大きな可能性がある。

事務局：制度を設定するというよりは、大きく俯瞰するための資料を示した。豊かな資産の俯瞰図と捉えて欲しい。

事務局：事業の進捗の報告であって、決定ではありません。

4. その他事項

次回日時：1月25日木曜日 午後14時00分～ 場所：町中央公民館4F 教育長室

5. 閉会挨拶